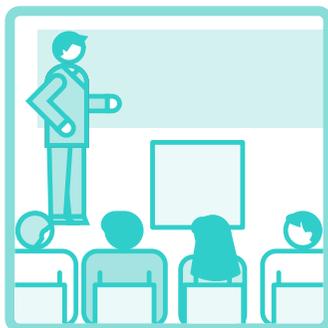


第2章



大学生の学習・生活

データからみた現状と課題

大学への期待と学びの実態とのギャップ

1. 大学で過ごす時間

◆真面目な大学生

- 1-1 通学日数
- 1-2 授業の出席割合

2. 授業

◆学生の授業への期待と取り組み姿勢

- 2-1 大学での学びの役立ち感
- 2-2 授業に対する選好
- 2-3 経験した授業のスタイルと評価

3. 学習時間

◆授業に出席はしているものの…

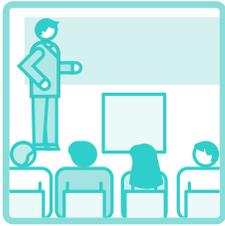
- 3-1 授業の予復習や課題をする時間
- 3-2 授業以外の自主的な勉強時間
- 3-3 定期試験・レポートの準備期間

4. 課外活動

◆課外活動の取り組み状況は

- 4-1 サークル・部活動
- 4-2 アルバイト・社会活動





大学への期待と学びの実態とのギャップ

Benesse教育研究開発センター 研究員 吉本 真代

今の大学生は大学に何を期待し、どのように学んでいるのだろうか。この章では、2008年に実施した「大学生の学習・生活実態調査」の結果を中心に、その一端をみていきたい。

大学生の学びに対する意識と学びの実態

大学生に大学での学びに対する選好をたずねた結果では、約6割の大学生が、「将来やりたいことを決めて授業を受けるより授業を通して将来やりたいことをみつきたい」、「特定の専門分野よりも幅広い知識を学びたい」と考えている。授業の形式や内容面については、8割が「演習形式の授業より講義形式」を好み、7割が「応用・発展的な内容より基礎・基本中心の内容の授業」で、「定期試験やレポートよりも出席や平常点を重視した成績評価」を望んでいる。また、「系統立って学ぶことよりも自由に選択履修できるほうがよい」とする学生が6割強である（図2-2-2）。学部系統別にみると「医・薬・保健」系統は異なった傾向を示しているが、総じていえば、アラカルト的に広く浅く学びながら将来やりたいことをみつきたいと考えている学生が多いといえよう。

実際の学びの状況をみてみると、まず、大学生の1週間の平均通学日数は4.4日でありかなり真面目に大学に通っている（表2-1-1）。また、授業の出席率は、9割以上の授業に出席していると回答した学生が約7割である（表2-1-2）。しかしながら、授業の予復習や課題をする時間はというと、1週間に1時間未満しかしていない学生が5割であり、授業以外の自主的な勉強となるとその割合は6割とさらに増える（図2-3-1、図2-3-3）。定期試験の前になってもその準備

にかける期間は1週間以下の学生が約半数である（図2-3-5）。これらの結果をみる限りでは、今の大学生は、授業には出ているものの、自主的に学んでいないようである。

大学への期待を現実のものとするために

一方、「大学の授業で学んだことは将来役に立つ」と思うかどうかについてたずねた結果では、約7割の学生がそう思う（「とてもそう思う」+「まあそう思う」）と肯定的にとらえている。しかしながら、1年生では74.4%が肯定しているのに対し、4年生では64.8%と10ポイント程度低くなっている（図2-2-1）。これは、1年生の時は期待していた学生であっても大学で授業を受けてみた結果、そうではないと感じる学生が少なからず存在することを示しているといえるだろう。その理由については様々な要因があるだろうが、今回のデータから指摘できることは、学生側の受け身な学びの姿勢であろう。将来に役立つような学びは、単に授業を聞いているだけでは、たとえ幅広い領域に触れたとしてもさほど得られないだろう。将来やりたいことをみつけるのも然りである。自分の可能性を知るためには、何かに深く真剣に取り組むことが必要であろうが、学生にその心構えができているのだろうか、また、大学側はその機会を十分に提供できているだろうか。

こうした志向性をもつ学生達に対しては、早期に学びの転換を促す指導や取り組みを行うとともに、授業の中で学生が主体的に参加できる部分を増やすなど積極的に学ばせるしつけや工夫を行っていくことが重要になるであろう。

1. 大学で過ごす時間

1-1 通学日数

1・2年生では7～8割の学生が週5日以上通学。4年生になると文系・理系で大きな差。

大学生の1週間の平均通学日数は4.4日で、週5日以上大学に通っている学生が約6割である。学部系統別には、「医・薬・保健」系統がもっとも多く、平均通学日数が5.0日、9割が週5日以上大学に通っている。さらに4つの学部系統に絞って学年別の平均通学日数をみると、1・2年生では学部系統によらずほぼ毎日通学している学生が多いが、4年生になると「人文科学」「社会科学」系統は大きく減っている。

Q あなたは1週間のうち、だいたい何日大学に通っていますか。

表2-1-1 1週間の通学日数（全体・学部系統別・学年別）

大学1～4年生

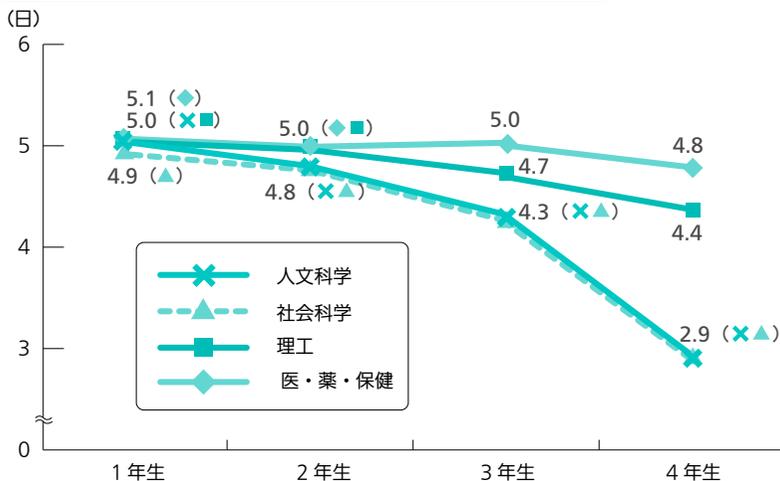
		平均（単位：日）	7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日
全体（4,070）		4.4	1.6	10.0	51.7	18.8	8.7	4.4	4.3	0.5
学部系統別	人文科学（837）	4.3	1.4	11.4	43.4	22.5	9.7	6.6	4.8	0.4
	社会科学（1,553）	4.2	1.2	8.7	42.6	22.9	11.9	5.7	6.2	0.9
	理工（980）	4.8	2.3	10.2	64.5	13.2	6.0	1.6	2.0	0.1
	農水産（125）	4.9	3.2	12.0	66.4	12.8	4.0	0.8	0.8	0.0
	医・薬・保健（283）	5.0	0.4	13.8	76.3	5.7	1.8	0.7	1.1	0.4
	教育（143）	4.5	3.5	11.2	47.6	19.6	6.3	6.3	5.6	0.0
	その他（149）	4.4	1.3	6.0	55.0	21.5	7.4	4.7	3.4	0.7
学年別	1年生（1,017）	5.0	1.5	14.9	69.1	12.1	1.5	0.5	0.2	0.2
	2年生（1,013）	4.9	1.3	12.7	61.5	20.5	3.2	0.2	0.2	0.4
	3年生（1,017）	4.5	1.8	7.1	48.1	27.1	12.4	2.7	0.7	0.2
	4年生（1,023）	3.5	1.9	5.5	28.3	15.4	17.8	14.1	15.8	1.2

注1) ●は各カテゴリー別の最大値を示す。注2) 対象は大学1～4年生4,070人。()内はサンプル数。



図2-1-1 1週間の平均通学日数（学年×学部系統別）

大学1～4年生



注1) このグラフの集計対象は、サンプル数の多い4学部系統のみとし、その他は省略している。

注2) サンプル数の内訳は以下の通り。

	人文科学	社会科学	理工	医・薬・保健
1年生	208	379	250	72
2年生	239	369	229	83
3年生	200	392	236	70
4年生	190	413	265	58

表2-1-1・図2-1-1「大学生の学習・生活実態調査」(2008)

1. 大学で過ごす時間

1-2 授業の出席割合

授業の9割以上に出席する大学生が全体の7割。

授業の平均出席割合は、9割以上出席している学生が4学年全体で69.7%で、1年生は79.6%にのぼる。学部系統別では、「医・薬・保健」系統の出席割合がもっとも高く、66.4%が10割出席している。一方、「社会科学」系統では10割出席は30.8%にとどまる（表2-1-2）。学年別には1年生から4年生にかけて出席割合は全体的に低くなっていくが、特に「社会科学」系統で、学年が進むほど、顕著に低くなっていく様子がわかる（図2-1-2）。

Q あなたは授業に平均してどの程度出席していますか。

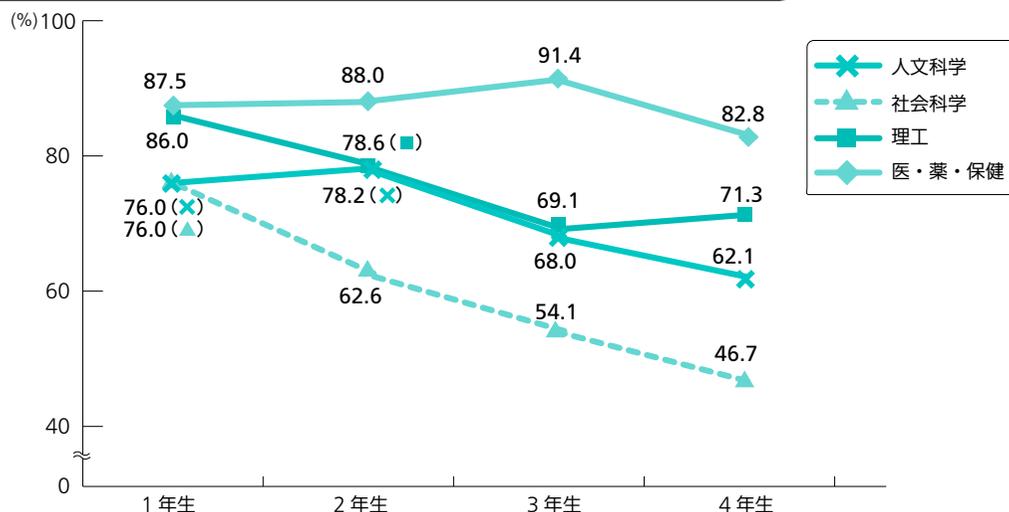
大学1～4年生

表2-1-2 授業への出席状況（全体・学部系統別・学年別）

		出席割合 (%)										
		10割	9割	8割	7割	6割	5割	4割	3割	2割	1割	0割
全体 (4,070)		41.0	28.7	14.3	7.1	2.5	2.5	0.6	1.1	0.5	0.6	1.1
学部系統別	人文科学 (837)	38.7	32.9	15.2	8.2	1.6	1.1	0.6	0.8	0.4	0.4	0.2
	社会科学 (1,553)	30.8	28.7	17.1	9.9	3.7	4.4	0.8	1.8	0.8	1.0	1.0
	理工 (980)	49.8	26.4	12.0	4.3	1.7	1.8	0.5	0.7	0.3	0.3	2.0
	農水産 (125)	45.6	33.6	12.0	4.0	3.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8
	医・薬・保健 (283)	66.4	21.2	6.4	2.8	1.8	0.7	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4
	教育 (143)	49.0	25.9	14.7	6.3	1.4	0.7	0.0	0.0	1.4	0.7	0.0
	その他 (149)	43.0	34.9	13.4	1.3	2.0	0.7	0.7	2.0	0.0	0.0	2.0
	学年別	1年生 (1,017)	48.9	30.7	10.8	5.1	1.5	1.5	0.3	0.4	0.2	0.3
	2年生 (1,013)	44.4	29.4	12.3	5.4	3.4	2.3	0.8	1.0	0.4	0.3	0.3
	3年生 (1,017)	39.5	25.9	17.0	9.1	2.4	3.0	0.9	1.2	0.4	0.4	0.2
	4年生 (1,023)	31.4	29.0	17.2	8.6	2.7	3.0	0.5	1.9	1.0	1.4	3.3

注1) 〇は各カテゴリー別の最大値を示す。注2) 対象は大学1～4年生4,070人。()内はサンプル数。

図2-1-2 授業に9割以上出席している学生の割合（学年×学部系統別）



注1) このグラフの集計対象は、サンプル数の多い4学部系統のみとし、その他は省略している。

注2) サンプル数の内訳は、P41 図2-1-1注2)に同じ。

表2-1-2・図2-1-2「大学生の学習・生活実態調査」(2008)

2. 授業

2-1 大学での学びの役立ち感

大学生の約7割が「大学の授業で学んだことは将来役に立つ」と感じているが、学年があがるにつれ減少傾向。

大学での学びを、「大学の授業で学んだことは将来役に立つ」と肯定的にとらえている大学生が69.2%（「とてもそう思う」+「まあそう思う」、以下同）、「授業に限らず大学で学んだことは将来役に立つ」については78.1%と、どちらも多くの学生が大学での学びを将来に有用であると考えている。

「大学の授業で学んだことは将来役に立つ」について、学年別にみると、1年生で74.4%が肯定しているのに対し、4年生では64.8%と9.6ポイント低くなっている。学部系統別には「医・薬・保健」系統で85.5%と肯定の回答がもっとも高いが、「社会科学」系統では、64.3%ともっとも低く、両者で21.2ポイントの差がみられる。一方「授業に限らず大学で学んだことは将来役に立つ」については学年別、学部系統別にあまり違いはみられない。

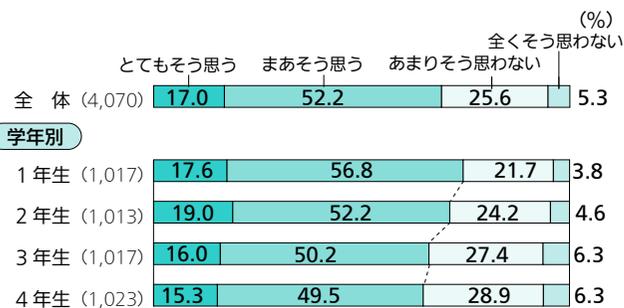
Q あなたは、次のようなことがらについてどう思いますか。

図2-2-1 大学での学びに対する意識

大学1～4年生



●大学の授業で学んだことは将来役に立つ



●授業に限らず大学で学んだことは、将来役に立つ



学部系統別

人文科学 (837)	15.5	52.2	27.1	5.1
社会科学 (1,553)	13.7	50.6	28.7	7.0
理工 (980)	16.0	54.5	24.9	4.6
農水産 (125)	17.6	51.2	28.0	3.2
医・薬・保健 (283)	34.3	51.2	12.7	1.8
教育 (143)	23.1	53.8	18.9	4.2
その他 (149)	26.8	54.4	17.4	1.3

人文科学 (837)	29.4	50.5	16.5	3.6
社会科学 (1,553)	21.6	54.3	19.7	4.4
理工 (980)	21.5	55.3	19.7	3.5
農水産 (125)	28.0	52.8	16.8	2.4
医・薬・保健 (283)	26.9	56.5	14.8	1.8
教育 (143)	26.6	54.5	16.8	2.1
その他 (149)	32.2	52.3	14.8	0.7

国公私別

国立 (1,033)	17.4	53.5	24.4	4.6
公立 (252)	12.7	54.8	29.4	3.2
私立 (2,785)	17.2	51.5	25.7	5.7

国立 (1,033)	24.1	55.1	17.7	3.1
公立 (252)	22.2	54.0	21.4	2.4
私立 (2,785)	24.6	53.3	18.3	3.8

注) 対象は大学1～4年生4,070人。()内はサンプル数。
「大学生の学習・生活実態調査」(2008)

2. 授業

2-2 授業に対する選好

約6割の学生が、幅広い分野について学び、
授業を通じて将来やりたいことをみつきたい。

大学生に、大学の主に授業に関する選好をたずねた結果、将来やりたいことを決めて授業をうけるより、「授業を通じ将来やりたいことをみつけるほうがよい」(57.0%)、特定の専門分野よりも「幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい」(59.2%)と考える学生がどちらも半数を超えている。具体的な形式や内容面については、演習形式よりも講義形式の授業を82.0%が好み、応用・発展的な内容より基礎・基本が中心の授業の方を72.9%がよいとし、定期試験やレポートよりも出席や平常点を重視した成績評価を70.0%が望んでいる。やりたいことを見つめるべく幅広く学びたいという傾向とともに、どちらかという広く浅く学びたいという志向性もみてとれる。

図2-2-3は、中でも学部系統別に違いの大きかった4項目であるが、「人文科学」系統で、「授業を通じて将来やりたいことをみつけるほうがよい」がもっとも高く(66.2%)、カリキュラムの系統性は自由な方を好み(76.3%)、幅広い分野の知識や技能を身につけることを望んでいる率も高い(63.8%)。それとは反対の傾向を示しているのが「医・薬・保健」系統であり、職業との関連の明確な学部とそうでない学部で選好の違いが表れている。

Q 大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。それぞれ近いものをお選びください。

図2-2-2 大学教育に対する選好(全体)

大学1~4年生

	Aに近い	Bに近い	(%)	
学生は将来やりたいことを決めて、授業をうけるほうがよい	43.0	57.0		学生は授業を通じて、将来やりたいことをみつけるほうがよい
大学では幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい	59.2	40.8		大学では特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい
あまり自由に選択履修できなくても、系統立って学べるほうがよい	35.1	64.9		あまり系統立って学べなくても、自由に選択履修できるほうがよい
教員が知識・技術を教える講義形式の授業が多いほうがよい	82.0	18.0		学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が多いほうがよい
応用・発展的内容は少ないが、基礎・基本が中心の授業がよい	72.9	27.1		基礎・基本は少ないが、応用・発展的内容が中心の授業がよい
出席や平常点を重視して成績評価をする授業がよい	70.0	30.0		定期試験や論文・レポートなどを重視して成績評価をする授業がよい
あまり興味がなくても、単位を楽にとれる授業がよい	48.9	51.1		単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい
大学での学習の方法は、大学の授業で指導をうけるのがよい	39.3	60.7		大学での学習の方法は、学生が自分で工夫するのがよい
授業以外にも、大学の教員は積極的に学生と交流するほうがよい	72.5	27.5		授業以外では、大学の教員は必要以上に学生と交流しなくてもよい

注) 対象は大学1~4年生4,070人。
「大学生の学習・生活実態調査」(2008)

図2-2-3 大学教育に対する選好（学部系統別・4項目）

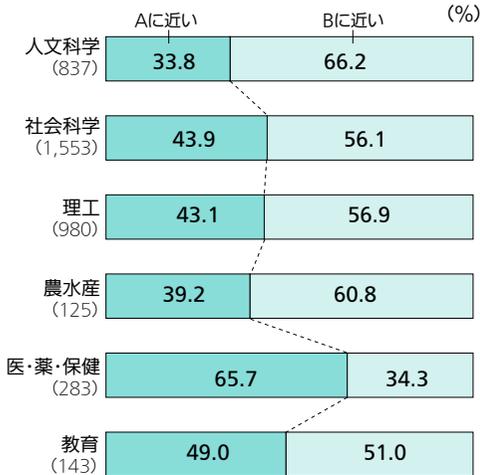
大学1～4年生

●授業と将来やりたいことの関係

A
学生は将来やりたいことを決めて、授業を受けるほうがよい。

↔

B
学生は授業を通じて、将来やりたいことをみつけるほうがよい。

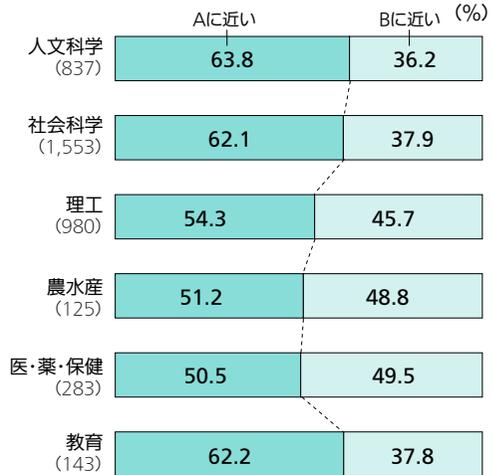


●大学で身につけたいこと

A
大学では幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい。

↔

B
大学では特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい。

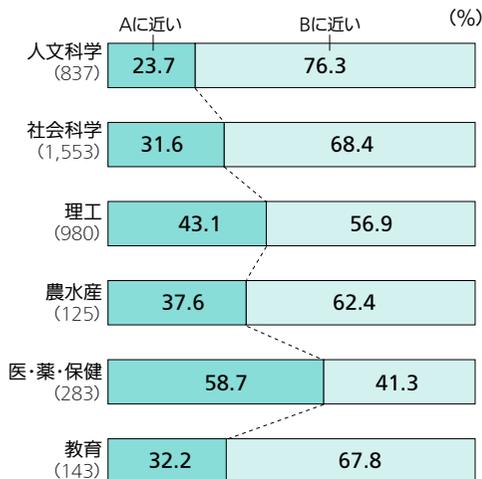


●カリキュラムの系統性

A
あまり自由に選択履修できなくても、系統立って学べるほうがよい。

↔

B
あまり系統立って学べなくても、自由に選択履修できるほうがよい。

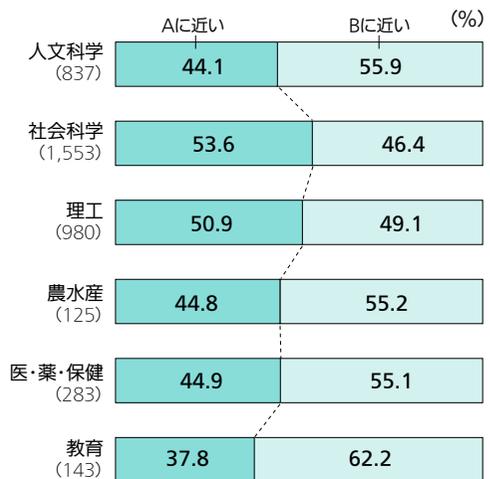


●授業への興味と単位取得の難易度

A
あまり興味がなくても、単位を楽にとれる授業がよい。

↔

B
単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい。



注1) 学部系統は、「その他」は省略した。
注2) 対象は大学1～4年生。()内はサンプル数。
「大学生の学習・生活実態調査」(2008)



2. 授業

2-3 経験した授業のスタイルと評価

プレゼンテーションの機会のある授業がためになったと感じている学生が多い。

大学生に、大学での授業のタイプ別に経験度合いとその評価についてたずねたところ、「プレゼンテーションの機会のある授業」は8割の学生が経験しており（「よくあった」+「時々あった」）、そのうち「とてもためになった」と感じている率が35.1%と高くなっている。次に学生が「とてもためになった」と評価している率が高いのは、「教室外で体験的な活動や実習を行う授業」（31.5%）で、経験している学生の割合は5割程度であるが、経験するとためになったと感じる学生が多いようである。

Q ①大学であなたが経験した授業のうち、次のような授業がどの程度ありましたか。

②前問で「よくあった」「時々あった」と回答したものについて、どのように感じていますか。

大学4年生

図2-2-4 経験した授業

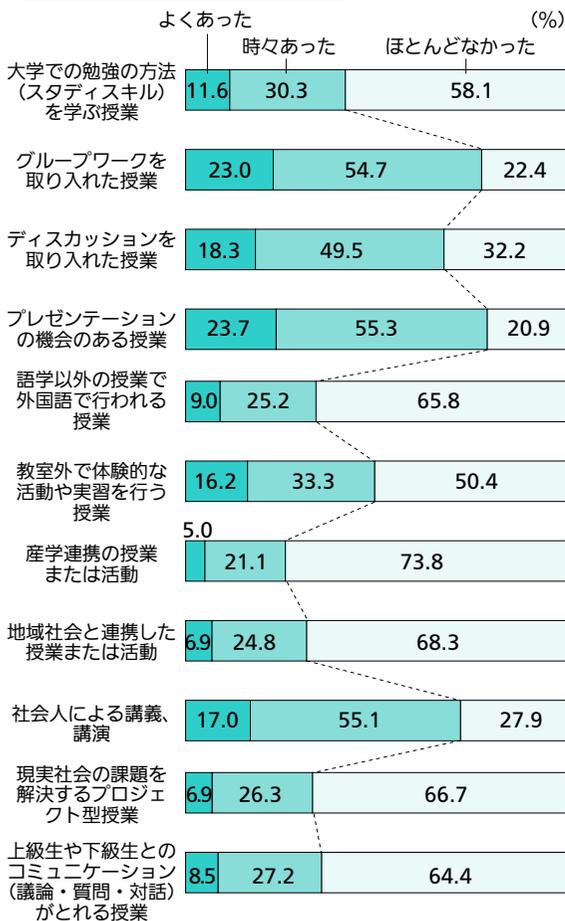
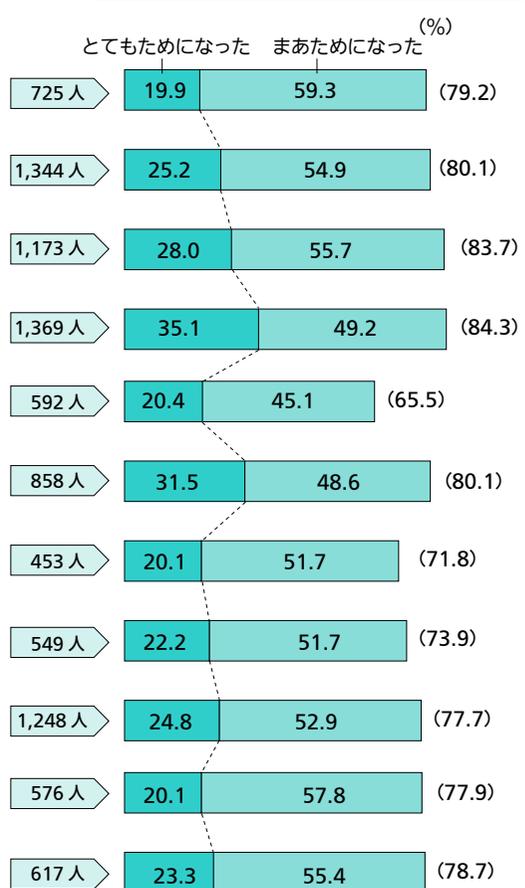


図2-2-5 経験した授業に対する評価



注1) ◀は図2-2-5の質問の対象人数を表す。

注2) ()内の数値は、「とてもためになった」「まあためになった」の合計値。

注3) 図2-2-5の選択肢は「とてもためになった」「まあためになった」「あまりためにならなかった」「ほとんどためにならなかった」の4段階。

注4) 対象は大学4年生1,731人。

「社会に必要な能力と高校・大学時代の経験に関する調査」(2010)

3. 学習時間

3-1 授業の予復習や課題をする時間

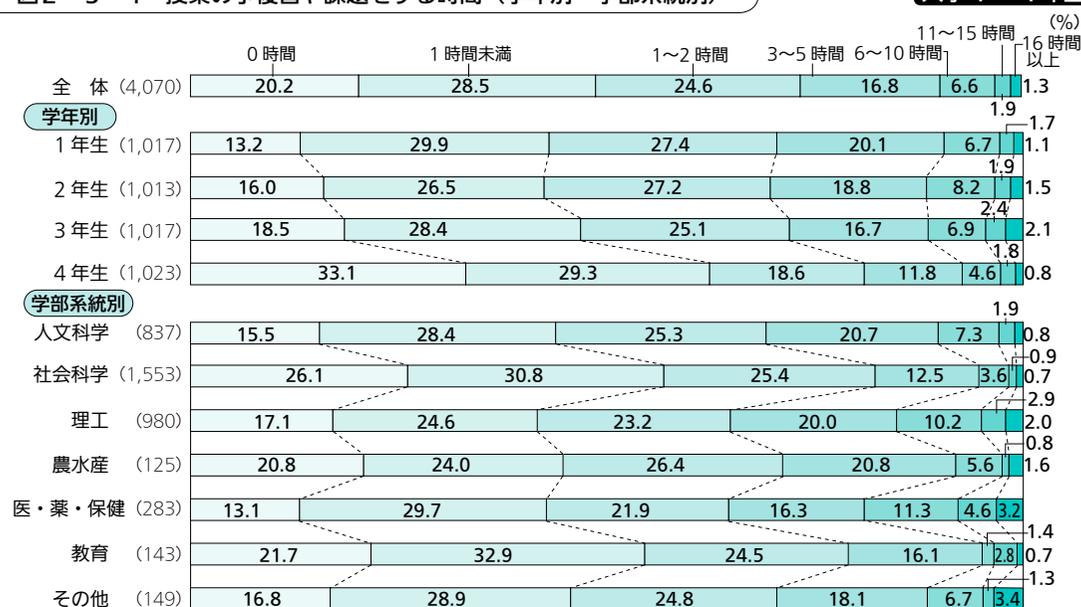
半数の大学生は、授業に関する学習が「週1時間未満」。

「授業の予復習や課題」を全くしていない学生が全体の20.2%、1週間あたり1時間未満しかしていない学生も加えると48.7%と約半数がほとんど予復習や課題をしていないことになる。学部系統別では「社会科学」系統で1時間未満の割合がもっとも高く56.9%である。さらに学年・学部系統別に、週1時間以上勉強している割合をみると、やはり「社会科学」系統で、とりわけ3年生以後の比率の低下が顕著である。

Q ふだんの学校外での時間の過ごし方について、次の項目（授業の予復習や課題をする時間）は1週間で何時間くらいになりますか。

図2-3-1 授業の予復習や課題をする時間（学年別・学部系統別）

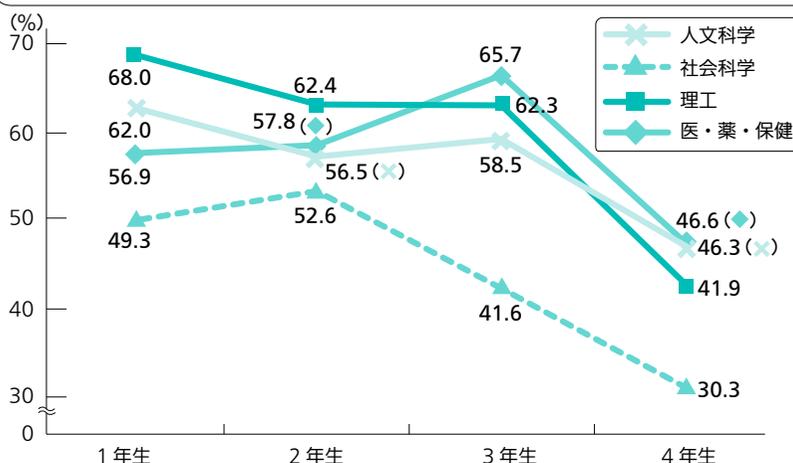
大学1～4年生



注) 対象は大学1～4年生4,070人。()内はサンプル数。

図2-3-2 「授業の予復習や課題」を週1時間以上している学生の割合（学年×学部系統別）

大学1～4年生



注1) このグラフの集計対象は、サンプル数の多い4学部系統のみとし、その他は省略している。
注2) サンプル数の内訳は以下の通り。

	人文科学	社会科学	理工	医・薬・保健
1年生	208	379	250	72
2年生	239	369	229	83
3年生	200	392	236	70
4年生	190	413	265	58

図2-3-1～2 「大学生の学習・生活実態調査」(2008)



3. 学習時間

3-2 授業以外の自主的な勉強時間

3割の学生が「授業以外の自主的な勉強」をまったくしていない。

31.7%の学生が「授業以外の自主的な勉強」をまったくしていない。1週間に「1時間未満」しかしていない学生も加えると61.4%と半数を超える。学年・学部系統別で1時間以上勉強している学生の割合を比較すると（図2-3-4）、「理工」「医・薬・保健」系統で4年になると大きく時間が増えるが、一方、「人文科学」「社会科学」系統は3年をピークにして少し下がっている。

Q ふだんの学校外での時間の過ごし方について、次の項目（授業以外の自主的な勉強をする時間）は1週間で何時間くらいになりますか。

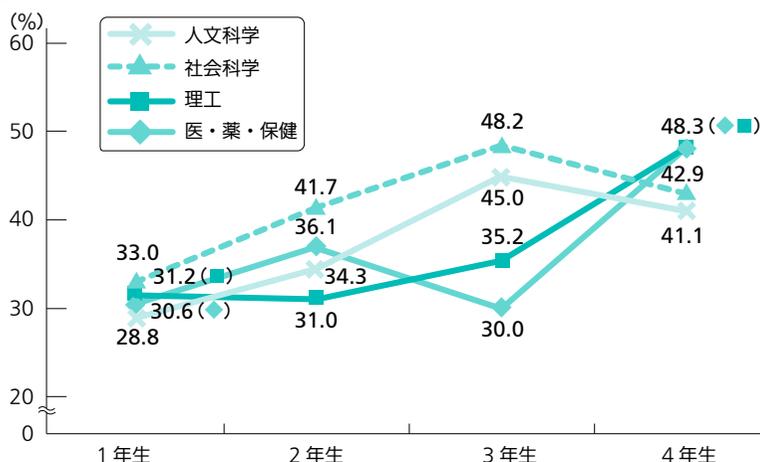
図2-3-3 授業以外の自主的な勉強をする時間（学年別・学部系統別）

大学1～4年生



注) 対象は大学1～4年生4,070人。()内はサンプル数。

図2-3-4 「授業以外の自主的な勉強」を週1時間以上している学生の割合（学年×学部系統別）



注1) このグラフの集計対象は、サンプル数の多い4学部系統のみとし、その他は省略している。

注2) サンプル数の内訳は、P44 図2-3-2注2)に同じ。

図2-3-3～4 「大学生の学習・生活実態調査」(2008)

3-3 定期試験・レポートの準備期間

定期試験やレポートの準備にかかる日数は1週間以内が約半数。

定期試験とレポートの準備にかかる期間は、全体では、ともに「1週間前」からとする割合が大きく、定期試験 24.6%、レポート 26.2%となっている。1週間未満の層を含めると、半数程度が「1週間以内の準備」で定期試験、レポート作成に臨んでいる。このうち定期試験の準備については、学部系統を問わず、1割程度の学生が「前日」または「当日」に準備、もしくは「特に準備しない」状態で試験に臨んでいる。

Q あなたは試験やレポートのために、おおよそいつごろから準備を始めることが多いですか。

図2-3-5 学期末に受ける定期試験の準備期間（全体・学部系統別）

大学1～4年生



注) 対象は大学1～4年生4,070人。()内はサンプル数。



図2-3-6 学期末に課されるレポートの準備期間（全体・学部系統別）

大学1～4年生



注) 対象は大学1～4年生4,070人。()内はサンプル数。

図2-3-5～6 「大学生の学習・生活実態調査」(2008)

4. 課外活動

4-1 サークル・部活動

半数の学生がサークル・部活動に参加。入学時の満足度と相関。

大学でのサークル活動や部活動については、ほぼ半数（49.0%）が参加している。活動の頻度は週1日が20.4%と最も多い。週4日以上と活発に活動している学生（21.6%）と同程度である。また、この状況は入学時の意識とも関連している。この大学に「ぜひ入りたいと思って進学した」との意識をもって進学したグループのサークル・部活動への参加率は56.6%と他を10ポイント以上上回っており、入学段階での高い満足感が、その後の積極的な大学生活へとつながっている様子をうかがうことができる。

- Q ①あなたは現在、サークルや部活動に参加していますか。
 ②（「参加している」と回答した方にお聞きします。）週にどのくらいサークルや部活動に参加していますか。

図2-4-1 サークル・部活動の参加状況

大学1～4年生

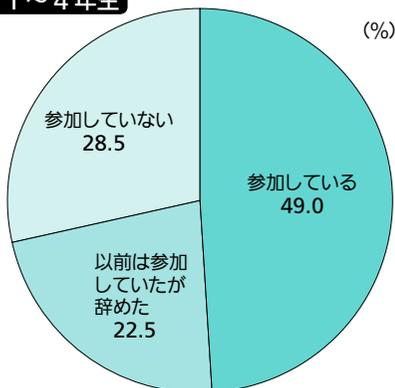
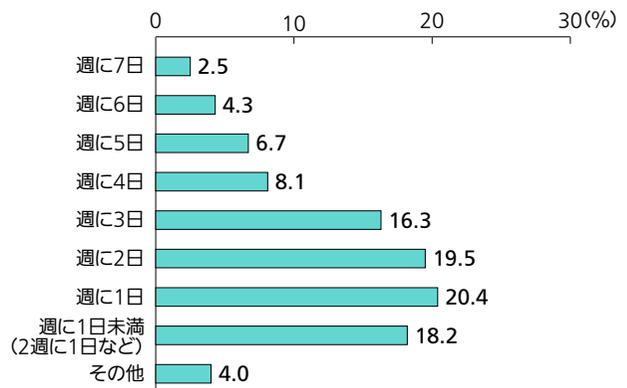


図2-4-2 サークル・部活動への1週間あたりの参加日数

大学1～4年生



注) 対象は大学1～4年生4,070人。

注1) 複数参加している場合は、すべての合計日数。

注2) 対象は「あなたは現在、サークルや部活動に参加していますか」に「参加している」と回答した1,993人。

図2-4-3 サークル・部活動の入学志望度別参加率

入学志望度



注) 対象は大学1～4年生4,070人。()内はサンプル数。

図2-4-1～3 「大学生の学習・生活実態調査」(2008)

4-2 アルバイト・社会活動

アルバイトに力を入れる学生は約8割と多いが、ボランティアなど社会活動に力を入れる学生は2割台にとどまる。

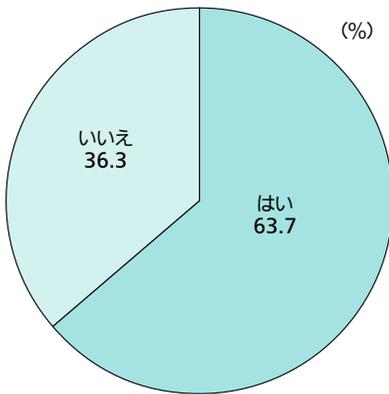
アルバイトをしている学生は全体の6割程度(63.7%)で、頻度は「週に3日」程度がもっとも多い(32.1%)。大学生生活を通してアルバイトに力を入れた(「とても力を入れた」+「まあ力を入れた」+「少し力を入れた」、以下同)とする学生(4年生)が79.2%なのに対し、社会活動(ボランティア・NPO活動など)については調査時点の2008年現在で24.2%とさほど多くはない。

Q あなたは現在、アルバイトをしていますか。

Q 週にどのくらいアルバイトをしていますか。

図2-4-4 アルバイトをしている学生の割合

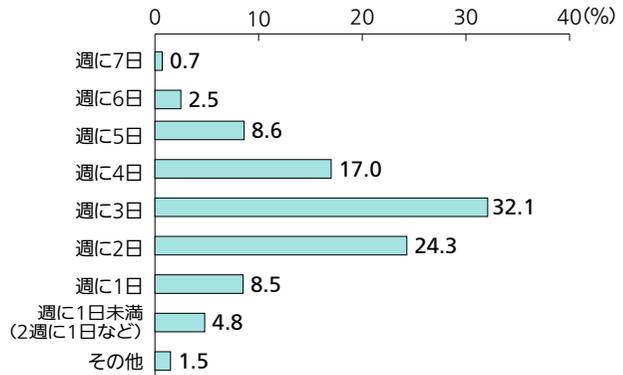
大学1～4年生



注) 対象は大学1～4年生4,070人。

図2-4-5 1週間あたりのアルバイトの日数

大学1～4年生



注1) 複数している場合は、すべての合計日数。

注2) 対象は「あなたは現在、アルバイトをしていますか」に「はい」と回答した2,594人。

Q あなたは次の項目について、これまでの大学生活の中で、どれくらい力を入れてきましたか。

図2-4-6 アルバイト・社会活動への取り組み度合い

大学4年生



注) 対象は大学4年生1,023人。

図2-4-4～6 「大学生の学習・生活実態調査」(2008)

